

当社は、五十年以上続くニット製品メーカーで、腹巻きに始まり、紳士・婦人ニット、会社ユニフォームなどを手掛けてきました。

技術提案から生地生産・縫製・検品までワンストップで受注生産できる体制と数名の熟練縫製工の存在が強みで、経営も順調でした。

ところが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、商談延期や、展示会等の中止が相次ぎ、先行きを案じる米沢喜一社長から、事業継続を図るための今後の事業展開につ

行きます。聞きます。提案します
そして 伴走します
 ～商工会の支援事例～ 29
『技術』を活かせ！
事業環境に対応する新商品開発・販路開拓支援
 支援先：米沢ニット株式会社
<https://r.goope.jp/yonezawa-knit>



熟練縫製工による作業の様子

いて相談を受けたことがきっかけで、支援が始まりました。

ニットの技術を活かした新たな取り組み

まず、社長と奥様と、現状分析と今後の業況を相談した結果、①オンラインによる商談の実現、②ECサイト向け商品の受注獲得、③新たなニットソー製品の製造の三点に取り組むことになりました。

①のオンライン商談の実現には、ニット製品のデザインやバーチャルサンプルをオンラインで共有できるソフトウェアの導入が必要でした。

そこで、小規模事業者持続化補助金を活用し、オンライン商談が可能な体制を整備したところ、得意先商社との商談を再開でき、足元の受注獲得に繋がりました。

②の取組として、今後は感染症を気にせずに購入できるインターネット経由が主流になると予測し、社長が得意先商社のEC部門に、当社の技術力や生産体制をアピールしたことで新規受注をもらうことができました。



当社製造のECサイト向けニット商品

③の取組として、当社の強みである縫製技術力を生かして、編物の生地を裁断して縫製する新たなニットソー製品の製造を開始しました。

そのため、宝達志水町事業拡大等支援補助金を活用して、ニットソー縫製のミシンを導入するとともに、販路開拓を図るため、ニットソー製品をふるさと納税返礼品に登録しました。

印刷技術導入による新商品開発と販路開拓

感染症が落ち着いた後も、自社製品を開発、販売することは、事業継続に不可欠と判断し、衣料との関係性が高い印刷事業にチャレンジすることにしました。

そのため、石川県の新分野チャレンジ緊急支援費補助金を活用して、布生地にインクを塗布して直接印刷できるガジェットプリンターを導入し、マスクにオリジナルデザインを印刷するアイデアを宣伝しました。早速地元美容室からロゴ入マスクの注文をもらうなど、新規顧客ニーズをつかむことができました。

また、当商工会の会員事業所から、「新商品のキャンペーン用品を収納する袋を製造できる事業者がないか」との問合せがあり、当社を紹介したところ、技術提案力の高さとロゴ印刷技術が、焚き火台用のトートバッグの受注につながりました。

今後も、事業計画の作成、事業の進捗の確認、助言、事業完了、ビジネスマッチングと言った伴走型支援に取り組

み、同社の事業継続を見守っていきます。



焚き火台と収納用トートバッグ



担当経営指導員から一言

- 事業者さんの思いや考えを、実現できるような、現状の課題や想定される場面、活用できる施策等をお伝えし、意思決定に役立てていただけたような支援を続けていきたいと思っております。

● 宝達志水町商工会
 ● 経営指導員 合田 昇平

米沢ニット株式会社

〒919-1141 四一六

羽咋郡宝達志水町出浜ハ126番地
 TEL 〇七六七二一九一四一七八

この事例は令和四年度石川県商工会優秀支援事例の最優秀賞を受賞しました。